

PHAYAO レポート 2018-01

(活動のかたわらで・さえきてるお)

「!!できた・できた!!」2018年6月

「幼稚園と小学校が」!!!ホイプム村に!!!

～同じ地域に住むタイ国民として行政の村への認証が「村の夢」である～

かつて難民でこの地に違法に住み着いたため正式な村になれず土地の所有権もなく町に通じる道路も、食料を得るための土地も開発が禁止され30年・・・と過ぎ40年が経過する。生活権・使用权は当然のことながら、とくに発生していることは政府も認め、寛容な姿勢も見受けられるが土地の人的加工は厳しく違反者には法的罰則を行使し、昨年から取り締まりが強化された。2007年以前の状況に遡り10年前の衛星写真を基に以降の新規開発行爲（森林伐採や家屋・樹木の植栽・耕作地・農業などで使用している土地）を行っている者の戸別調査が始まり罰金と使用禁止などが行われている。

村のほとんどの世帯は、イスラエル・韓国への出稼ぎが収入源となっているが近年の地域行政機関と連携によるシャンティ山口のプロジェクトで転換した果樹園も収穫2年目となり、安定した兆しが見えてきたため家族の苦難と身の安全を脅かす出稼ぎも征かなくてすむ日も間近い。

親たちが叶わなかった未来ある子ども達のための教育・タイ社会の一員としての試練が始まる。

5歳になると幼稚園の就園。家から10km山を下りた村の幼稚園・小学校への寄宿舎生活である。

寄宿舎は、雨風をしのぐだけの小さな小屋で兄弟や村の子ども達だけで食事の煮炊きから洗濯勉強と自活した協働生活を余儀なくされている。帰宅は、長期休暇と乾季の土日、5歳から12歳までの幼児・児童は、家族と共に暮らすのが当たり前であるのが現状。寄宿舎生活に対応できない家庭や担い手がなくなる理由から幼稚園・学校へ行かせない家庭もある。このような不自由だった境遇の中、

村人達が「実現のない夢」としていた「**幼稚園・小学校が開設された**」。

一方、政府は、地域の保育園・幼稚園・小学校の統合化を進めスクールバスによる送迎が主流である。

開校式の記念写真



幼稚園児と国境警察教育隊員



小学生児童と国境警察教育隊員

一般行政の村でないことから政府教育省での管理運営ができず校舎は、竹とトタンで村の人たち全員協働で仕上げた。予算も少なく教育省の学校とは、ほど遠く施設も貧弱で机・イス・黒板以外は何もないが、村にとっての喜びは格別であり家庭の事情で諦めた子達もみんな行くことができるようになった。幼稚園児 27 名、保育士 2 名。小学生 1 年～4 年生 30 名（当面の間、手狭と先生不足から 5、6 年生は、従来の学校生活）、先生 5 名。教育組織は、タイ政府国境警察教育隊の特殊組織で、全員警察権限と教師資格を持ち国境警備を兼ねた先生方で有事の時は直ちに対応ができる体制にあり、村にとって身近な存在として期待している。



開校式の日(2018.6)幼稚園児と親・国境警察教育隊員



お昼の給食（食堂小屋）ご飯は家から持参・給食は魚のミンチ・豆腐煮の1品

シャンティ山口の取り組み

これまでホイプム村では 9 年間、村人の手で培ったコミュニティーと自立がようやく地域社会に知られ行政も動き出し、2015 年 9 月地域行政連携支援プロジェクトが評価されパヤオ県知事賞を受賞した。

電気・道路・水道等インフラ整備、予算の配分などの恩恵は、行政の村としての認証がない限りあてはない。村人の、たゆまない努力の成果として幼稚園・学校は幸いしたが、これからが正念場、村人の夢であり、プロジェクトの最終目的である「行政の村」への認証に向かってスタートだ!!

!!来年度から住民と共に地域環境保全に取り組み地域のモデル村を目指す!!

2018.08.30.saeki